

< もくじ >

1. 今年度学会大会第1段階(10/15)終了と第2段階移行のご案内	1
2. 2020年度連続講座 第1回<社会情報研究会企画による回>開催のお知らせ	2
3. コロナ禍について想うこと、言いたいこと	2
4. 原稿募集中! コロナ禍について想うこと、言いたいこと	3
5. 研究会からのお知らせ	3
6. 研究会からの概要報告	4
7. 事務局からのお願い	6

1. 今年度学会大会第1段階(10/15)終了と第2段階移行のご案内

「コロナ禍」の影響で延期されていた2020年度の「創立20周年記念大会」の第1段階は、10月15日(木)、労働者協同組合連合会会議室で無事終了いたしました。10月30日(金)から2週間の予定で、一般の会員および非会員にもご参加いただく第2段階に入りますのでお知らせいたします。

第2段階は、第1段階の第1部「基調講演」(袖井孝子会長)、第2部「鼎談」、第3部「シンポジウム」までを収録したビデオ画面を、当学会ホームページ上でオンデマンド公開いたしますので、その間に、会員・非会員の皆様からも活発なご意見をいただき、第1段階の登壇者とのやり取りを含めて、実り多い議論ができることを期待しております。

(1) オンデマンド録画配信期間(一般会員・非会員・第1段階登壇者との意見交換期間)2020年10月30日(金)～11月14日(土)

※録画配信まで準備が必要であり、しばらくお時間をいただくことになりますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

(2) 視聴方法: 上記期間中、当学会ホームページから第1段階の録画を視聴できます。

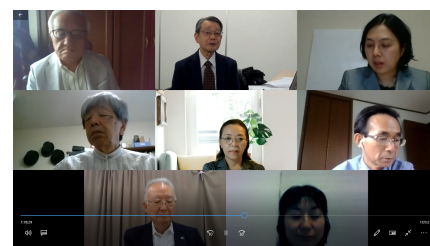
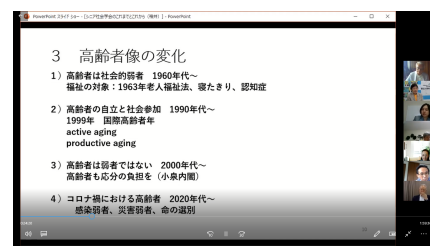
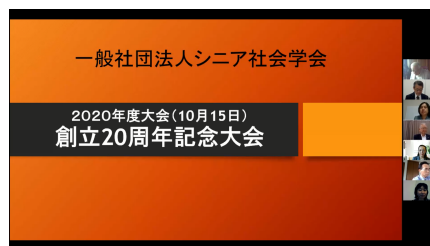
(3) 発言方法: 学会宛のメールでご意見・ご感想・ご提案などをお寄せください。

メールの宛先: jaas@circus.ocn.ne.jp

※メールが利用できない方はFAXでも結構です。しかし、コロナ禍で事務局に出勤するのは水曜日に限られており、若干対応が遅れますことをご了解ください。また、電話では、文書に残して登壇者や他の会員にお伝えすることが困難ですので、お控えくださるようお願いいたします。

※コロナ禍中における今回の大会開催方法には、限界はありますが、地方など遠方にお住まいの方々にもご参加いただけるメリットもございます。また、改善点についてもいろいろご意見がおりかと思いますので、積極的にご意見をお寄せください。

(事務局長 長田攻一)



2. 2020年度連続講座 第1回 <社会情報研究会企画による回> 開催のお知らせ

シニア社会学会の連続講座は、例年、外部会場での集合形式で実施していますが、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、Web 会議ツール「Zoom」を利用したオンライン会議方式で開催することとなりました。Zoom の利用については、シニア社会学会 HP にマニュアルのご案内がありますので、初めての方もふるってご参加ください。

<第1回連続講座の概要>

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、働く場や教育の場そして日常生活でも ICT 利用の場面が多くなりました。対面でのコミュニケーションが制限され、インターネットを介したコミュニケーションのために今まで利用していなかったツールの利用を始めたりなど、日常生活を送るために対応が求められたかたもいらっしゃるでしょう。このように、新型コロナウイルス感染症の拡大は、多くの世代の ICT 利用に大きな影響を及ぼすと考えられます。

ニューノーマル（新常態）のなかで、ICT はどのような役割を果たせるのか、社会情報研究会の現役世代メンバーが、それぞれの立場から事例も交えてお話しします。

(1) 日 時：11月28日（土） 14：00～15：00

(2) 方 法：Zoom による Web 会議方式で開催

講師3名によるリレー方式となります

(3) 講 師：八巻睦子（会員、ユニアデックス株式会社未来サービス研究所）

森嶋由紀子（会員、駒沢女子大学非常勤講師）

富田光則（会員、株式会社電通マクロミルインサイト）

(4) テーマ：コロナと共生する社会～ICT と歩むこれからのニューノーマルライフ～

(5) 参加費：無料

※ お問い合わせお申し込みは、事務局まで e メールにてお願いします。

※ お申し込みいただいた方に、Zoom のミーティングへの招待メールをお送りします。Zoom の利用については、シニア社会学会 HP にマニュアルのご案内がありますので、参考になさってください。

3. コロナ禍について想うこと、言いたいこと

(1) コロナ禍について想う

吉竹弘行（千葉商科大学、会員）

私の大学では、コロナ禍が発生したため、春学期は全科目、秋学期もゼミ以外はオンライン授業という方針にしました。

教員にとって、通信環境が違う学生を想定した複数の教材を準備する必要性や、学生の生活時間に合わせた質問への回答はかなり大変ですが、良かったと感じたことは、殆どの学生が教材をしっかりと読んで、きちんとしたレポートを書く習慣がついてきたことです。

ただ他学年も同様ですが、特に新入生たちが、大学での新生活が始まったにもかかわらず友達を作ることでもできず、教員と身近に話し合うこともできない状態になっています。

大学は、専門知識だけではなく、高等教育を受けた人材に相応しい人格を切磋琢磨して醸成する高等教育機関です。そうした機能を提供できていない状況を残念に思います。

竹内一郎氏は著書「人は見た目が9割」で、「我々は、テレビを通じて、戦争の映像を見ることができるが、戦争の匂いを嗅ぐことはできない。つまり、匂いを知ることなく、戦争がわかったつもりになるのである。水洗トイレとテレビの延長線上に、ネット上の恋愛があるように思えてならない」と書いています。やはり物事の本質をつかむには五感で対応する必要があると思います。

私は、今のように受験向けに履修科目を絞ることやクラブ活動に制限を加えることより、全人教育を目指す高校で学ぶことで、友人たちと触れ合い、「思考の自由」を得ることができたような気がします。

コロナ禍が、同じようなレベルの人と人が触れ合う事で生まれる「思考の自由」という大学の誕生

契機にもなった事柄を奪っていることは大変悲しいことですし、なんでもオンラインで行えるといった風潮が、社会に生まれつつあることに危機感をもちます。

できるだけ早い時期にこうした状況が改善され、人が人と触れ合う意味を感じられる社会が戻ってくることを望みます。

（２）新しい日常・回帰した日常 小島克久（国立社会保障・人口問題研究所、会員）

2020年1月23日。私は出張先の台北におり、帰国の日であった。搭乗した機内で読んだ現地の新聞には、武漢で感染症が広がっていることなどが報じられていた。「何か大きなことが起きる」と直感したものの、これが世界を巻き込み、私たちの生活を一変させるとは夢にも思っていなかった。

2月以降、私の生活は大きく変わった。仕事面では出張することがなくなり、職場の会議は基本的にオンラインとなった。また、テレワークも導入された。毎日の生活では、バーコード決済アプリを利用するようになった（中国では感染予防に有効とされている）。そのため、日常の買い物では現金を人とやりとりすることが減った。さらに、オンラインショッピングの利用も増えた。

ここまででは他の人と同じような変化であろう。私自身の生活習慣の変化として、「ラジオを聞く」ことが増えた。少年時代の私はラジオを聞くのが好きで、兄から譲ってもらったラジオで国内外の放送を良く聞いていた。上京し、社会に出てからはこうした習慣がなくなっていた。外出自粛などで自宅にいる時間が長くなると、インターネットでラジオ放送を聞くことが多くなった。テレビと異なり、耳で聴くメディアであるためか、大げさな演出も少なく落ち着いて楽しむことができた。外国ではAMによるラジオ放送が廃止になった国があるなど、情勢は厳しい。私見であるが、ラジオはテレビより受信方法が手軽なメディアであり、日常はもとより緊急時も頼りになるメディアではないかと考えている。

兄からもらったラジオは今でも自室にあり、最近買ったラジオ、スマホのアプリとともに時折使っている。こうした「回帰した日常」も「新しい日常」のひとつになっている。

4. 原稿募集中！ コロナ禍について想うこと、言いたいこと

すでに投稿をいただき、ニュースにも掲載が始まっている標記原稿募集のお知らせです。新型コロナウイルス禍は、一向に収束の気配はなく感染拡大は続いています。新しい日常・生活様式が提唱されていますが、その内実は未だに不確かです。早くも冬を迎えようとしています。皆様は、どのような日々をお過ごしでしょうか。自粛生活における体験や感じたこと、考えたことなどについて、何でもご自由にお書きください。今後のJAASニュースに掲載いたします。文字数は、600字前後、締め切りは特に設けません。

- ・送付先は、メールの場合には、jaas@circus.ocn.ne.jp
- ・郵送の場合は、〒150-0002 渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202 シニア社会学会事務局（事務局出勤日を水曜のみに制限していますので、できるだけメールでお願いいたします）

5. 研究会からのお知らせ

（１）第74回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年10月22日（木） 15:00～18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：発表と討議 — 『コロナウイルス感染拡大防止策として人の移動の自由を制限すること』について
- 4) 発表者：薄井 滋
- 5) 参加者：300円

※ お問い合わせは、島村（ken-sima1941@jcom.home.ne.jp）までお願いいたします。

（２）第126回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年10月28日（水） 18:00～20:00

- 2) 報告者：椎根 溪（住宅型有料老人ホーム ウェルケアヒルズ馬事公苑サービス提供責任者）
3) テーマ：「施設生活から社会生活へ～老人ホーム入居後の自分らしい生活について～」
4) zoom で開催いたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com

※ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(3)「ライフプロデュース研究会」の活動とお知らせ

当研究会は、新型コロナウイルス感染症への予防対策優先のため、残念ながら2月開催予定であった第19回大会を中止して以来、対面式の会合は中断しております。その一方で、研究会員の提案で日程を工夫して「ZOOM 会議」を開き、第2回目を10月28日(水) 17:00時から開催いたします。

「Zoom 会議」以外にも、会員全員が順番にコロナ禍に関する自粛活動や前向きな対応策、処方術などや「コロナとの共生術」等々の意見をメールで報告・発信し合い最終的には、各自の近況報告として研究会ブログに収めています。現在の予期せぬ危機をどう乗り切ればいいのかについての詳細な文献収集・報告もあり、学会員の皆様にも是非とも「ライフプロデュース研究会」のブログにじっくりと目を通して頂きたいと願っております。 (皆川 記)

(4) 第13回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年10月29日(木) 15:00～17:00
2) 場 所：Zoom開催
3) 概 要：連続講座企画の検討等

※ 参加ご希望の方は、森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

6. 研究会からの概要報告

(1) 第12回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2020年9月17日(木) 15:30～17:30
2) 場 所：Zoom開催
3) テーマ：コロナと共生する社会—社会情報とのかかわり等で思うこと つづき

Zoomによる研究会開催もだいぶ慣れてきました。今回は7名での開催です。前回までの続きと、本テーマのまとめを検討しました。また、本研究会が企画する「2020年度シニア社会塾」について検討しました。

(1) 八巻 「コロナと共生する社会—社会情報とのかかわり等で思うこと」

コロナで個人・家庭のICT格差が鮮明化、Webコミュニケーションの欠点克服も課題になっています。情報へのアクセス面では、デバイス、通信環境整備で経済・知識・経験などの格差が顕在化しているように感じています。リテラシー面では、操作ノウハウ、利用経験の蓄積、知識の累積、情報判断の基礎知識などの向上と過誤情報をのり越えるメディアリテラシー蓄積が必要ではないか。また、コミュニケーション面では、「同じ場にいること」から自然発生する当たり前のコミュニケーションが欠落してくるようになります。

格差を埋めていく解決策として、アクセス面、リテラシー面、コミュニケーション面から考えていく必要があるでしょう、といった提示がありました。

(2) これまでの報告概要をまとめ、共通のテーマと課題を整理しました。

連続講座での報告の材料とするため、整理された課題について議論しました。特に、個人情報の保護、セキュリティへの対応について議論されました。「シニアにとっての課題は？」を整理した際に、「課題を解決するためのヒントを提示するのがゴール？」ではないかとされました。

(3)「2020年度シニア社会塾（社会情報研究会企画）について」

- ・日時 2020年11月28日(土) 14:00～1時間程度

・方法 Zoom の会議方式（リアルタイムで実施）
講師 3 名（八巻、富田、森嶋）のリレー方式で講演
といったことが決まりました。詳細は、追って JAASNews や HP でご案内いたします。（森 記）

（２）第 125 回「社会保障」研究会報告要旨

- 1) 日 時：2020 年 9 月 23 日（水） 18:00～21:00
- 2) 報告者：坂本純一（JS アクチュアリー事務所代表・（公財）年金シニアプラン総合研究機構
特別招聘研究員・元厚生労働省年金数理課長）
- 3) テーマ：「令和 2 年度年金改正と残された課題」
- 4) zoom で開催。参加者 13 人

令和 2 年の年金改正は、共産党を除く与野党が一致するというこれまでにないものであった。それ程、争点のない改正であったともいえる。改正の主な点は次の 4 点。①被用者保険の適用拡大：これまで 500 人超の企業に義務付けられていた非正規雇用者への年金適用を 2024 年 10 月からは 50 人超企業にまで拡大。②在職老齢年金制度の見直し。これまではボーナスを含む月収と年金月額合計額が 28 万円以上の収入の半額相当分が支給停止であったが、2022 年からは基準額を 47 万円に引き上げ。これによって、高齢者の就労を促進することができる。③受給開始時期の選択肢の拡大。これまで 70 歳であった受給の繰り下げの上限年齢を 75 歳にまで引き上げることによって、受給額が 84% 増加する。年金額を上げることによって老後生活の安定を図る。④確定拠出年金の加入要件の見直し。加入年齢 65 歳未満、支給開始年齢 70 歳であったものを、それぞれ 70 歳未満、60～75 歳に引き上げる。

年金改正を推進したのは、菅直人内閣（民主党政権）時の与野党合意による社会保障・税の一体改革であり、社会保障制度改革プログラム法（2013 年 12 月公布）により検討項目が定められている。そして、そのもとになった社会保障制度改革国民会議の報告書では、高齢者がより長く就労することが推奨されている。幸い日本の高齢者の就労意欲は非常に高いが、コロナ禍の中、いかにして高齢者の雇用を拡大するかは大きな課題である。

参加者からは、少子高齢化や非正規雇用の若者の増大による日本社会の将来についての不安が述べられる一方、最近の若者にみられる従来の雇用にとらわれない新しい働き方の選択に希望が持てるという意見もあった。初めてのオンライン研究会であり、事前に練習をしたが、大きなトラブルもなく実施することができた。（袖井孝子 記）

（３）第 62 回「災害と地域社会」研究会報告

- 1) 日 時：2020 年 10 月 9 日（金） 17:00～19:00
- 2) 方 法：Zoom による会議方式
- 3) 報告者：大沢真理（東京大学名誉教授）
- 4) テーマ：「防災／減災と男女共同参画—『2017 年度女性・地域住民からみた防災・災害リスク削減策に関する調査』を踏まえて—」
- 5) 報告概要

今回は、研究会コラボの趣旨で袖井先生から大沢先生をご紹介いただきました。ご報告は、「2017 年度女性・地域住民からみた防災・災害リスク削減策に関する調査」の内容を中心とするもので、まずそのデータを見る前に理解しておくべき前提条件として 5 点を挙げられました。①災害のレジリエンス（回復力）を語る上で、ジェンダー平等性の視点を組み込むことの重要性、②国連防災会議と国内防災計画におけるジェンダー視点のギャップ、③災害レジリエンスを左右する要因としての「市町村合併・公務員削減」と「社会関係資本の脆弱性」、さらに④過去の大災害経験の教訓が東日本大震災後の「仙台防災枠組」にも活かされていない現状、⑤今後の人口減少予測（今後 30-40 年間に 20-39 歳の女性人口が 5 割以上減少する地域は消滅する）に対応していない、市町村の「まち・人・仕事総合戦略」の現状です。

2017年の調査は、47 全都道府県（100%回収）と市区町村（1806 中 64.8%回収）を対象に行われた調査結果を、2008 年度の男女共同参画調査結果のうち防災・災害リスク削減策の整備状況と考えられる要素に絞って比較する形で報告されました。詳細は省きますが、激甚災害の指定が人的被災よりも災害復旧土木事業の査定事業費に基づいていること、防災会議や自治体危機管理部門職員での女性比率は、2008 年と比較すれば多少増えているとしても、きわめて低い（2017 年でも女性ゼロの市町村が 23.8%）上、地域によってかなり差がある。また、自治体に男女共同参画担当がいることで、要配慮者や避難行動要支援者の範囲が、乳幼児、妊産婦、災害時の負傷者、外国人、災害孤児、アレルギー症などにまで広く想定される比率が高まり、避難所運営指針、仮設トイレなどの設置品目や備蓄品目、車中泊被災者への配慮などの範囲も細くなる傾向があること、しかし人口規模やその他の要因による地域差があることなど、さらに、自治体が防災／減災対策を含むか否か、若年女性の定着の有無によって、「まち・人・しごと総合戦略」がうまくかみ合うか否かに差が出ることなど、興味深い報告がなされました。

参加者には青森、岩手、宮城、福島地域で活動する女性や国の男女共同参画局に関わる研究者、スペインからの留学生などがおり、質疑応答の中で、ジェンダーの視点から従来隠れていた多くの問題領域が露わになったこと、地域差の原因（知事のリーダーシップ、隣県の影響、消防団活動への女性参加、地域防災会の活動の活発度、地域での女性社長や女性医師の多さなど）について、また、分析用具としての社会関係論の有効性についての知見の進展可能性など、今後の課題についてもさまざまな議論が交わされ、大変有意義な研究会となりました。（長田記）

7. 事務局からのお願い

2020年度も半期を経過しました。しかしながら、未だ年会費未納の会員がいらっしゃいます。日が経ちお忘れになっているのではと思い、お知らせしております。ついては支払期限までに、下記口座にお振込みいただきますようお願い致します。

◆年会費：2020年度 5,000円（正会員）、20,000円（団体正会員）

◆支払い期限：2020年10月31日

◆支払い方法：・郵便振替 口座番号 00110-2-123821

口座名 一般社団法人シニア社会学会

・銀行振込 みずほ銀行 渋谷支店 普通口座 1322265

口座名 一般社団法人シニア社会学会

一般社団法人シニア社会学会は会員の皆様の年会費で運営しております。その旨をご理解いただき支払期限まで納入下さいますようお願い申し上げます。

尚、行き違いにお振込みいただきました場合は、失礼の段ご容赦ください。

また、納入の確認は事務局（jaas@circus.ocn.ne.jp）宛ご連絡ください。

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202

電話&FAX：(03) 5778-4728

eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/